

- 1 派遣期日 平成 27 年 8 月 22 日 (土)
- 2 研修先 学校名 東京学芸大学附属小金井小学校
所在地 東京都小金井市貫井北町 4-1-1
<http://www.u-gakugei.ac.jp/~kanesyo/>
- 3 研修内容

テーマ 「高めよう 国語授業力
単元を貫く言語活動」

(1) 授業づくりワークショップ

(2) 提案授業 (5 年生)
「小金井小コマーシャルを作ろう」

(3) 講話
「課題の解決に向けた主体的・協働的な学びを実現する国語科の授業づくり」
講師 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 水戸部 修治先生

(1) 授業づくりワークショップ

「説明文を確かに楽しく読んでみよう」

提案者 東京学芸大学附属世田谷小学校 教諭 大塚健太郎

- 「説明的文章」の読解を確かに楽しく
 - ・ 21 世紀型能力の中核に「思考力」があり、それを支える「基礎力」。そして、「実践力」が伴われなければならない。
 - ・ 確かに読んで、楽しく得た情報を活用する場を作っていく。
- 情報を求める読み
 - ・ 知りたいという願いによって読む (情報としてとらえる)。
- 情報を活用する読み
 - ・ 得た情報をどのように加工・発信するか。
 - ・ 読んで生かす⇒紹介する、推薦する、反論する、見解を表明する
 - ・ 生かすために読む⇒図解、プレゼン資料、広告化・ポスター化
 - ・ 子どもたちは新しく知ったことは伝えたい。

(2) 提案授業「小金井小コマーシャルを作ろう」 (5 年生)

- 単元を貫く言語活動「話し合う」・・・次の 3 点を重点的に指導する。
 - ・ 話し合いは、参加した人のお互いの考え方を理解したり、人間関係を深めたりすることができる。
 - ・ 問題を解決する (コマーシャルを作る) ためには、積極的に会話をつないで話し合いを進めなければならない。
 - ・ 問題解決のための内容のある話し合いをする。
- 話し合いを促進する「ファシリテーター」を設定する。
 - ・ ファシリテーターは、まとめ役というよりは、話し合いが進むように「問いかけ」たり、「提案」したりすることが主な役割としている。
- 教師の目的
 - ・ 美しいコマーシャルができるということではなく、生産的な話し合いができる学習集団になってほしいということ。
- 学習者の目的
 - ・ 自分たちのコマーシャルを見て小金井小で生活する子どもたちの魅力を知ってほしいということ。



話し合い活動

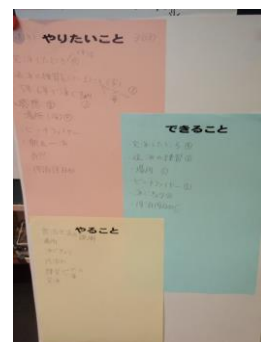
○授業（本時）のねらい

- ・各グループでコマーシャルを作るためにひらめきを出し合い、ひらめきを取捨選択して、企画を具体化に向けたプレゼンテーションをする。

○展開

- ・本時に必要な話し合いについて全体で確かめる。
- ・各グループでファシリテーターを選ぶ。選んだ理由を発表し、ファシリテーター自身に役割意識をもたせ、周囲にも選んだ責任感をもたせる。
- ・やりたいこと(ピンク紙)やできること(水色紙)を書き出す。
- ・コマーシャルの構想を立てる。やりたいことやできること、これらのひらめきを取捨選択していく。どんなことを企画したいのか(黄色紙)書き出す。
- ・各グループが全体の前で構想について発表する。

コマーシャルの構想



○話し合いや学習について振り返る

- ・振り返りの観点…①相互理解、人間関係の深化(情意面)②話し合いを進める対話能力(技能面)③話し合い自体を振り返る(認知面)



学習感想カード



ファシリテーターは
ビブスをつけている。

(3) 講話

「課題の解決に向けた主体的・協働的な学びを実現する国語科の授業づくり」

講師 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 水戸部 修治先生

○子どもたちにとって必要な資質・能力をどう育むか

- ・教育の在り方を一層の進化を遂げなければならない。
- ・知識の伝達だけに偏らず、学ぶことと社会とのつながりをより意識した教育を行う。

○国語科で「何を学ぶか」「どのように学ぶか」

- ・国語科におけるアクティブ・ラーニングの具体化とは
- ・これからの社会を生き抜く子どもたちにとって必要な読む能力とは

○単元を貫く言語活動を位置付けた国語科の授業づくり

4 感想

今回の研修では、国語の授業力を高めるために、単元を貫く言語活動の在り方や取り組み方などを学ぶことができた。ワークショップでは、子どもたちが説明文を読むためには、文章構成がどのようなになっているのか、接続語や指示語を理解しているか、要旨を述べることができるかなど児童の実態を把握して授業づくりをすることが大切だと感じた。また、楽しく読むためにはどんな言語活動を取り入れれば良いのか、何が読めたら良いのか、何ができたら良いのかなど、教師が指導のねらいをもって言語活動を取り入れていかなければならないと改めて感じた。提案授業では、話し合い活動で司会者ではなく、話し合いが進むように問いかけたり、提案したりする「ファシリテーター」という役割を位置付けていたのが印象的だった。今までの話し合い活動の積み重ねがあるからこそできることだと授業を参観して思った。

水戸部調査官の講話では、これからの社会は人口減少、情報過多など変化の激しい未知の世界が予想され、この時代を生き抜くために子どもたちにとって必要な資質・能力を育まなければならないと聞き、今までの授業づくりだけに頼らず、子どもに必要な資質・能力を理解し、研修を積み重ね、新しいことも取り入れながら授業づくりに努めたいと思った。